



## 平成27年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成27年2月5日

上場会社名 ころネット株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 6060 URL <http://www.cocolonet.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 齋藤 高紀  
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 (氏名) 安齋 紀之 TEL 024-573-6556  
 四半期報告書提出予定日 平成27年2月12日 配当支払開始予定日 ー  
 四半期決算補足説明資料作成の有無： 無  
 四半期決算説明会開催の有無： 無

(百万円未満は切捨て)

### 1. 平成27年3月期第3四半期の連結業績（平成26年4月1日～平成26年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第3四半期	8,892	△5.1	510	△41.5	625	△34.0	499	△50.1
26年3月期第3四半期	9,375	13.4	873	△2.0	947	△1.7	1,000	136.6

(注) 包括利益 27年3月期第3四半期 514百万円 (△50.8%) 26年3月期第3四半期 1,044百万円 (148.3%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年3月期第3四半期	129.85	—
26年3月期第3四半期	260.21	—

### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
27年3月期第3四半期	21,714	7,991	36.8	2,079.41
26年3月期	22,857	7,592	33.2	1,975.58

(参考) 自己資本 27年3月期第3四半期 7,991百万円 26年3月期 7,592百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年3月期	—	15.00	—	15.00	30.00
27年3月期	—	15.00	—	—	—
27年3月期(予想)	—	—	—	15.00	30.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

### 3. 平成27年3月期の連結業績予想（平成26年4月1日～平成27年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	11,602	△3.8	401	△51.5	510	△45.8	328	△55.2	85.56

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 有

新規一社（社名）一、除外一社（社名）株式会社サンストーン

詳細は、添付資料P.4「2. サマリー情報（注記事項）に関する事項（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動」をご覧ください。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	27年3月期3Q	3,843,100株	26年3月期	3,843,100株
② 期末自己株式数	27年3月期3Q	125株	26年3月期	79株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	27年3月期3Q	3,843,000株	26年3月期3Q	3,843,045株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づくレビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表に対するレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 .....	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	4
3. 四半期連結財務諸表 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	9
(継続企業の前提に関する注記) .....	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	9
(セグメント情報等) .....	9
4. 施行件数の状況 .....	11

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府の経済政策や日本銀行の金融政策を背景に一部業種においては景気回復基調が見受けられました。一方で、円安による輸入原材料等の値上がり懸念から今後の国内景気は依然として不透明な状況であります。

当社グループの事業基盤となる福島県の経済においては、復興関連需要等により一部企業収益の改善が見受けられたものの、消費税増税、物価上昇等により個人消費の足取りは重いものとなりました。

このような環境下、当社グループでは平成26年4月1日、経営資源の集約と組織の効率化を目的に子会社の再編を行いました。また、知名度・ブランド力の向上のためにテレビ・ラジオコマーシャル等によるプロモーション活動を行いました。消費税増税に伴う駆け込み需要の反動が想定以上に大きいものであります。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間における当社グループの売上高は8,892百万円（前年同期比5.1%減）、営業利益は510百万円（同41.5%減）、経常利益は625百万円（同34.0%減）となりました。また、特別利益として補助金収入404百万円並びに特別損失として固定資産圧縮損378百万円を計上した結果、四半期純利益は499百万円（同50.1%減）となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであり、売上高についてはセグメント間の内部売上高または振替高を除き表示しております。

なお、第1四半期連結会計期間より、報告セグメントの区分を変更しており、以下の前年同四半期比較については、前年同四半期の数値を変更後のセグメント区分に基づき作成した数値で比較しております。

また、当社は、事業子会社の経営統括を主たる目的とする純粋持株会社であり、各連結子会社からの不動産賃貸料収入、経営管理料収入及び配当金を主たる収益としております。一方で、各セグメント(各連結子会社)の営業費用には、当社に対する不動産賃貸料及び経営管理料が計上されております。

#### ① 葬祭事業

当社グループが展開している営業エリアにおいて、死亡者数は前年同期と比べ減少し、同業他社との競争は更に厳しさが増しました。

このような状況の下、組織再編による効率化に努めるとともに、ロゴマークを一新し葬祭会館名称を「たまのや こころ斎苑」に統一しブランドの確立を目指しました。また、葬儀施行後の法事受注・仏壇仏具等の販売及び互助会への再加入の勧誘といったアフターフォローの推進を強化しましたが、売上高は3,653百万円（前年同期比3.3%減）、営業利益は116百万円（同27.2%減）となりました。

#### ② 石材卸売事業

当社グループが展開している営業エリアにおいて、消費税増税に伴う駆け込み需要の反動による低迷が長引き受注が減少しました。また、円安等による仕入れコストの上昇により収益性が低下しました。

このような状況の下、高品質石種の提案、インド産の石材を取り入れ差別化を図った営業活動に注力しましたが、販売数量の増加には至りませんでした。その結果、売上高は1,332百万円（前年同期比6.4%減）、営業利益は66百万円（同43.8%減）となりました。

#### ③ 石材小売事業

当社グループが展開している営業エリアにおいて、消費税増税に伴う駆け込み需要の反動により墓石等の新規建立の需要は停滞気配で推移しました。

このような状況の下、インド産石材の特売、耐震構造墓石の提案等により受注活動に注力いたしましたが、売上高は1,064百万円（前年同期比2.8%減）、営業利益は19百万円（同75.3%減）となりました。

#### ④ 婚礼事業

当社グループが展開している営業エリアにおいて、婚礼組数が減少傾向にあるなか、同業他社が相次いで出店し競争が激化しました。

このような状況の下、平成26年4月、婚礼事業会社2社を統合し経営の効率化を図るとともに、福島県郡山市の婚礼会場K I O K U N O M O R I（記憶の森）を新築開業し順調にスタートしました。また、販促キャンペーンを実施し婚礼受注に努めました。しかしながら、既存会場においては競争激化により受注増加には至らず、売上高は2,369百万円（前年同期比10.8%減）、営業利益は172百万円（同47.5%減）となりました。

⑤ 生花事業

当社グループが展開している営業エリアにおいて、生花需要は消費税増税により低調に推移する中、山形県山形市の山形営業所の本格稼働と新規開拓に努めました。また、仕入れコストの圧縮に注力した結果、売上高は391百万円（前年同期比9.4%増）、営業利益は84百万円（同44.7%増）となりました。

⑥ 互助会事業

互助会事業につきましては、互助会代理店による会員募集活動の強化により会員数の増加を図り、互助会を利用した葬儀及び婚礼施行の増加に努めました。また、互助会組織の見直しにより経費負担が増加しました。その結果、売上高は3百万円（前年同期比48.1%減）、営業損失は62百万円（前年同期は営業利益4百万円）となりました。

⑦ 介護事業

介護事業につきましては、サービス付き高齢者向け住宅への入居、訪問介護・通所介護等のサービスの利用増加のため、広告宣伝活動等に取り組みました。その結果、売上高は12百万円（前年同期は売上高の計上はございません。）、営業損失は37百万円（前年同期は営業損失4百万円）となりました。

⑧ その他

その他の装販部門については、高級棺等の販売に注力し外部への売上は堅調に推移しました。一方、円安により仕入れ価格が上昇し、また営業体制強化のため人件費が増加しました。その結果、売上高は61百万円（前年同期比18.9%増）、営業損失は5百万円（前年同期は営業利益2百万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(流動資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は、前連結会計年度末に比べ439百万円減少し4,009百万円となりました。これは主に前払式特定取引前受金保全のための国債購入、短期借入金及び長期借入金の返済等により現金及び預金が減少したことによるものです。

(固定資産)

当第3四半期連結会計期間末における固定資産は、前連結会計年度末に比べ702百万円減少し17,705百万円となりました。これは主に固定資産圧縮損及び減価償却費計上等により建物及び構築物が減少したことによるものです。

(流動負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は、前連結会計年度末に比べ714百万円減少し2,352百万円となりました。これは主に買掛金及び未払法人税等の支払、短期借入金の返済によるものです。

(固定負債)

当第3四半期連結会計期間末における固定負債は、前連結会計年度末に比べ826百万円減少し11,371百万円となりました。これは主に長期借入金の返済及び前払式特定取引前受金の減少によるものです。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べ398百万円増加し7,991百万円となりました。これは主に四半期純利益499百万円に伴う利益剰余金の増加によるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、平成26年10月31日の「業績予想の修正に関するお知らせ」にて公表いたしました通期の連結業績予想及び個別業績予想に変更はありません。

## 2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

### (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

第1四半期連結会計期間において、株式会社サンストーンは、株式会社郡山グランドホテルを存続会社とする吸収合併により解散したため、連結の範囲から除外しております。また、株式会社郡山グランドホテルは株式会社With Weddingに商号変更しております。

なお、特定子会社以外の子会社の異動については以下のとおりであります。

第1四半期連結会計期間において、株式会社川島は、当社を存続会社とする吸収合併により解散したため、連結の範囲から除外しております。

### (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

### (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,680,899	2,286,831
受取手形及び売掛金	860,794	661,236
有価証券	100,180	387,555
商品及び製品	435,764	412,067
仕掛品	33,823	67,993
原材料及び貯蔵品	32,404	34,374
その他	366,748	216,403
貸倒引当金	△61,686	△56,637
流動資産合計	4,448,928	4,009,822
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	7,760,648	7,073,405
土地	4,978,513	4,974,246
その他(純額)	263,068	284,417
有形固定資産合計	13,002,230	12,332,070
無形固定資産		
のれん	94,582	88,414
その他	44,351	41,289
無形固定資産合計	138,934	129,703
投資その他の資産		
投資有価証券	2,937,636	2,901,605
営業保証金	584,057	573,396
その他	1,821,190	1,845,674
貸倒引当金	△75,972	△77,369
投資その他の資産合計	5,266,911	5,243,305
固定資産合計	18,408,076	17,705,079
資産合計	22,857,004	21,714,902
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	467,219	363,687
短期借入金	810,000	320,000
1年内返済予定の長期借入金	854,185	766,540
未払法人税等	93,907	25,689
賞与引当金	163,816	101,372
固定資産撤去費用引当金	16,234	—
その他	661,585	775,072
流動負債合計	3,066,947	2,352,361
固定負債		
長期借入金	3,440,750	2,754,045
前受金復活損失引当金	32,050	30,500
資産除去債務	195,414	193,404
負ののれん	142,520	133,225
前払式特定取引前受金	8,025,821	7,954,250
その他	361,292	306,009
固定負債合計	12,197,848	11,371,435
負債合計	15,264,796	13,723,797

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	500,658	500,658
資本剰余金	2,033,012	2,033,012
利益剰余金	4,955,402	5,339,129
自己株式	△73	△120
株主資本合計	7,489,000	7,872,681
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	15,560	27,646
為替換算調整勘定	87,646	90,777
その他の包括利益累計額合計	103,207	118,424
純資産合計	7,592,208	7,991,105
負債純資産合計	22,857,004	21,714,902

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
売上高	9,375,358	8,892,691
売上原価	6,199,750	6,060,938
売上総利益	3,175,607	2,831,753
販売費及び一般管理費		
貸倒引当金繰入額	8,522	5,715
給料及び賞与	887,864	928,790
賞与引当金繰入額	55,446	62,300
退職給付費用	27,782	30,064
その他	1,322,095	1,294,010
販売費及び一般管理費合計	2,301,711	2,320,882
営業利益	873,896	510,870
営業外収益		
受取利息	26,892	29,121
受取配当金	2,739	2,647
負ののれん償却額	9,294	9,294
持分法による投資利益	4,712	—
掛金解約手数料	30,147	37,503
前受金月掛中断収入	16,740	45,264
その他	60,944	77,637
営業外収益合計	151,471	201,468
営業外費用		
支払利息	54,660	45,082
持分法による投資損失	—	3,131
前受金復活損失引当金繰入額	3,458	13,527
その他	20,035	25,184
営業外費用合計	78,153	86,925
経常利益	947,214	625,414
特別利益		
固定資産売却益	103,102	10,927
投資有価証券売却益	799	—
負ののれん発生益	209,115	—
補助金収入	70,936	404,158
その他	39,824	7,346
特別利益合計	423,777	422,432
特別損失		
固定資産売却損	34,800	2,280
固定資産除却損	35,895	20,714
固定資産圧縮損	—	378,375
投資有価証券売却損	61	—
その他	1,218	—
特別損失合計	71,975	401,370
税金等調整前四半期純利益	1,299,016	646,476
法人税、住民税及び事業税	192,755	139,757
法人税等調整額	106,243	7,701
法人税等合計	298,999	147,458
少数株主損益調整前四半期純利益	1,000,016	499,017
四半期純利益	1,000,016	499,017

(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	1,000,016	499,017
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	3,378	12,085
持分法適用会社に対する持分相当額	40,753	3,130
その他の包括利益合計	44,131	15,216
四半期包括利益	1,044,148	514,234
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,044,148	514,234
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

セグメント情報

I 前第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント							計
	葬祭事業	石材卸売事業	石材小売事業	婚礼事業	生花事業	互助会事業	介護事業	
売上高								
外部顧客への売上高	3,778,638	1,423,786	1,095,912	2,656,654	358,357	7,591	—	9,320,940
セグメント間の内部売上高又は振替高	15,526	297,161	7,606	148,848	304,851	309,915	—	1,083,910
計	3,794,164	1,720,948	1,103,519	2,805,502	663,208	317,506	—	10,404,851
セグメント利益又は損失(△)	160,073	118,175	79,630	328,781	58,263	4,474	△4,771	744,627

	その他(注)1	合計	調整額(注)2	四半期連結損益計算書計上額(注)3
売上高				
外部顧客への売上高	52,103	9,373,044	2,314	9,375,358
セグメント間の内部売上高又は振替高	59,511	1,143,422	△1,143,422	—
計	111,615	10,516,466	△1,141,108	9,375,358
セグメント利益又は損失(△)	2,482	747,109	126,786	873,896

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントである装販部門であります。

2 調整額の内容は以下のとおりであります。

(1) 外部顧客への売上高の調整額は、持株会社である当社の不動産収入であります。

(2) セグメント利益又は損失の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社利益533,651千円、各報告セグメントからの受取配当金の消去額△400,000千円、セグメント間取引消去8,506千円、のれん償却額△5,853千円、その他の調整額が△9,517千円であります。なお、全社利益は、当社の主たる収益である各連結子会社からの経営管理料収入及び不動産賃貸料収入等によって生じた利益であります。

3 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

第1四半期連結会計期間より、株式会社郡山グランドホテルを完全子会社とする株式交換に伴い、婚礼事業及び互助会事業の資産の金額が著しく変動しております。前連結会計年度の末日に比べ、当第3四半期連結会計期間末の報告セグメントの資産の金額は、婚礼事業4,541,694千円、互助会事業2,921,585千円がそれぞれ増加しております。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント							
	葬祭事業	石材卸売事業	石材小売事業	婚礼事業	生花事業	互助会事業	介護事業	計
売上高								
外部顧客への売上高	3,653,470	1,332,566	1,064,744	2,369,115	391,879	3,937	12,794	8,828,509
セグメント間の内部売上高又は振替高	1,302	284,586	417	171,579	324,043	240,555	—	1,022,484
計	3,654,773	1,617,153	1,065,162	2,540,694	715,922	244,492	12,794	9,850,993
セグメント利益又は損失(△)	116,492	66,383	19,689	172,507	84,320	△62,219	△37,873	359,300

	その他(注)1	合計	調整額(注)2	四半期連結損益計算書計上額(注)3
売上高				
外部顧客への売上高	61,932	8,890,441	2,250	8,892,691
セグメント間の内部売上高又は振替高	44,947	1,067,431	△1,067,431	—
計	106,879	9,957,873	△1,065,181	8,892,691
セグメント利益又は損失(△)	△5,375	353,924	156,946	510,870

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントである装販部門であります。

2 調整額の内容は以下のとおりであります。

(1) 外部顧客への売上高の調整額は、持株会社である当社の不動産収入であります。

(2) セグメント利益又は損失の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社利益471,116千円、各報告セグメントからの受取配当金の消去額△312,000千円、セグメント間取引消去10,435千円、のれん償却額△4,966千円、その他の調整額が△7,640千円であります。なお、全社利益は、当社の主たる収益である各連結子会社からの経営管理料収入及び不動産賃貸料収入等によって生じた利益であります。

3 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、「その他」に含まれていた「介護事業」について量的な重要性が増したため報告セグメントとして記載する方法に変更しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、当第3四半期連結累計期間の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

4. 施行件数の状況

当社グループのセグメントのうち主な事業である葬祭事業及び婚礼事業に係る葬儀、婚礼施行件数の当第3四半期連結累計期間における状況は次のとおりであります。

(1) 葬祭事業

	当第3四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)
	葬儀施行件数 (件)
福島事業部	887
郡山事業部	157
会津事業部	332
催事事業部	1,477
合計	2,853

(注) 催事事業部における葬儀施行件数は、株式会社J Aライフクリエイティブ福島との業務受託契約による施行件数であります。

(2) 婚礼事業

	当第3四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)
	婚礼施行件数 (件)
福島地区	183
郡山地区	302
会津地区	76
合計	561

(注) 上記施行件数については、パーティー・宴会等の施行件数は含まれておりません。